

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----------|
| 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

| | |
|-------|------------------------|
| 事業所番号 | 4691600037 |
| 法人名 | 社会福祉法人 豊生会 |
| 事業所名 | グループホーム曾於 |
| 訪問調査日 | 平成 20 年 11 月 18 日 |
| 評価確定日 | 平成 21 年 1 月 23 日 |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会 |

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月24日

【評価実施概要】

| | |
|-------|---------------------------------------|
| 事業所番号 | 4691600037 |
| 法人名 | 社会福祉法人 豊生会 |
| 事業所名 | グループホーム 曾於 |
| 所在地 | 鹿児島県曾於市財部町南俣99番1 (電話) 0986-72-3034 |

| | |
|-------|----------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会 |
| 所在地 | 鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号 |
| 訪問調査日 | 平成20年11月18日 評価確定日 平成21年1月23日 |

【情報提供票より】平成20年10月31日事業所記入)

(1) 組織概要

| | |
|-------|------------------------------------|
| 開設年月日 | 平成 20 年 1 月 18 日 |
| ユニット数 | 2 ユニット 利用定員数計 18 人 |
| 職員数 | 17 人 常勤 5 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 16.8 |

(2) 建物概要

| | |
|------|-------------------------|
| 建物構造 | 木造 造り 1階建ての 階 ~ 1階部分 |
|------|-------------------------|

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|-------------------------------|----------------|---------------|---|
| 家賃(平均月額) | 36,000 円 | その他の経費(月額) | 7,500円(水道光熱費) | |
| 敷金 | 有(円) <input type="radio"/> 無 | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) <input type="radio"/> 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり 850 円 | | | |

(4) 利用者の概要(10月31日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 4 名 | 女性 | 14 名 |
| 要介護1 | 7 名 | 要介護2 | 3 名 | | |
| 要介護3 | 7 名 | 要介護4 | 1 名 | | |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 84.9 歳 | 最低 | 74 歳 | 最高 | 93 歳 |

(5) 協力医療機関

| | | |
|---------|--------------|--------|
| 協力医療機関名 | 医療法人三篤会 高原病院 | 宅間歯科医院 |
|---------|--------------|--------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは財部駅から車で3分の位置にあり、郵便局、スーパーが近く、隣接に市の公園があり自然にも恵まれた環境である。社会福祉法人豊生会で平成20年1月にグループホームとしては4番目に開設されたホームであり、法人では毎月会議・職員教育が行われている。各ユニットに看護師を配置し協力病院と連携し医療面での体制も整備されている。居室は和風、洋風と好みの部屋が選べ、室内にトイレ、洗面台が備えられプライバシー面も確保されている。職員は一丸となり毎月苑外活動を行いメリハリのある生活支援ができるよう頑張っている。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|--|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 今年度開設にて前回評価無し。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者が自己評価票の作成をし、各ユニットの責任者に渡し、ユニットにおいて責任者を中心に職員と検討され、訂正、修正部分の報告を受け再度作成されている。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 平成20年開設のため第1回の会議が6月に開催されそれ以降2カ月に1回開催されている。会議では活動報告、ホームの現況報告がなされ、メンバーからの意見、地域の情報を得てそれらをサービスの向上に活かしている。会議メンバーに利用者・利用者家族が参加していき今後の課題となっている。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) ご家族の)面会時に入居者の様子や心身の状況を報告し、ご家族の意見や要望を聞ける雰囲気づくりに努めている。今後は家族会開催や運営推進会議への参加を計画し、ご家族からの意見を求め、運営に反映させていきたい意向である。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 財部町の職員が多く、地域行事の情報が得やすく、財部町の祭りや文化祭、保育園の運動会などに参加している。ホームの敬老会には地域の方に踊りや三味線のボランティアを依頼し、ホームのバーベキュー大会には地域住民の参加を呼び掛けるなど地域との交流に努めている。 |

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|--|---|-------|--|
| . 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| | | 地域密着型サービスとしての理念 | | | |
| 1 | 1 | 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 平成20年開設に伴い、管理者と職員で話し合い事業所のサービスが家族や地域とのふれあいを大切に支援していくことを謳った理念を作り上げている。 | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 毎朝の朝礼で理念の復唱を行い、ユニット会議において理念に沿ったケアの確認をしている。理念をリビング・事務所に掲げサービス提供場面において常に意識できるように取り組みをしている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 職員は財部町の人が多く地域行事の情報が得やすく、財部町の祭りや文化祭、又保育園の運動会に参加している。ホームの敬老会には地域の方に踊りや三味線のボランティアを依頼したり、ホームでバーベキュー大会(利用者、ご家族、地域住民参加)を行うなど地域との交流に努めている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 開設が20年1月にて前年度の評価は無い。自己評価作成の取り組みは、管理者が自己評価票を作成し各ユニットの責任者に渡し、ユニットにおいて責任者を中心に職員と検討され修正、訂正部分の報告を受け再度作成されている。 | | 管理者は評価の意義や活かし方を職員にわかりやすく伝えられ、自己評価を活かす為の効果的な活用手順の工夫をしていただきたい。 |
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 第1回目の会議を6月に開催されその後は2か月に1回開催している。メンバーは地域住民代表、市の職員が参加しているが、利用者・家族代表は参加していない。会議では活動状況を中心に報告が行われ、委員からの意見や地域行事の情報を得てサービスの向上に活かしている。 | | 地域との連携で義務付けられた運営推進会議には利用者、利用者の家族、地域住民の代表、市の職員、グループホームについての知見者で構成される会議であるがメンバーに利用者、利用者家族などの参加がないため、その対策をしていただきたい。 |

鹿児島県 グループホーム曾於

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|--|-----|---|
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市の窓口には資料提出や業務上の相談などしている。市の呼びかけで地域ネットワークづくりの会議に参加したり社会福祉協議会の勉強会にも参加してサービスの質の向上に取り組んでいる。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族へは毎月の請求書と共に、伝言事項をユニット責任者が書き込み報告している。遠くのご家族にはファックスでの報告もしている。面会時には金銭出納帳確認や写真の掲示を見て頂きながら日頃の様子を報告している。急な要件や病院受診は電話で連絡するなど個々にあわせた報告をしている。 | | |
| 8 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時にはご家族の意見や要望が聞けるように雰囲気づくりに努め、入り口の面会カードに意見や要望を書く欄を設けたりゆっくり話し合えるように相談室も設けている。重要事項説明書の苦情相談窓口に具体的な担当者名を明記をし、行政、国保連、第三者委員の連絡先が明記されている。 | | グループホームは家族と職員の関係が近く率直な意見が言い難い面があり、家族会や運営推進会議へ参加できる機会を設け、外部者に安心して意見を表せるよう図っていただきたい。 |
| 9 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 新規事業のため職員の異動もあったが、異動の影響でダメージとならないよう職員の引き継ぎの期間を十分に取ったり、管理者や責任者が見守るなど配慮している。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内に教育委員会があり、月に1回法人研修が開催されている。外部研修にも参加し、参加できなかった人はホーム内で研修資料を見もらうようにしている。ホーム内では毎月のスタッフ会議で勉強会をしている。 | | 職員は常勤、非常勤に関わらず一定の技術や知識を画一し、業務に従事していただきたい。職員が求める課題、管理者が職員に求めたい課題など全員で検討され、年間計画を立て技術や知識を身につける取り組みをしていただきたい。 |
| 11 | 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人の運営する同グループホームから見学があり11月には訪問の予定が計画されている。曾於市が福祉ネットワークを構築させていく段階でグループホーム協議会も発足の予定である。 | | 今後グループホーム協議会に参加され、同業者との交流機会を通じ勉強会や相互訪問の取り組みに期待します。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|---|---|-----|-----------------------------------|
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | <p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>最初に家族が見学され、その後本人に見学をしてもらい利用説明をおこない納得した上で入居している。入居してから落ち着かれない場合もあり、ご家族に来ていただいたり、自宅で落ち着くのを待ったりご家族の協力をもらって馴染めるよう工夫している。</p> | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | <p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p> | <p>職員と利用者は生活の場において、洗濯干し、洗濯たみ、食事の準備、掃除など常に一緒に行い、ねぎらいの言葉や感謝の言葉をかけ合ったり、相談したり、学んだり共に支え合いながら過ごされている。</p> | | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> | <p>本人の利用前の暮らしや利用時の意向を聞きさらに、生活の場面において、職員は言葉や仕草から意向の確認をし本人の暮らし方の希望や意向の把握に努めている。</p> | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> | <p>本人、ご家族の意向や希望を聞き、職員が日常生活の会話や態度から得た情報を持ち寄り本人がより良く暮らせるよう話し合い、介護計画に反映させている。</p> | | |
| 16 | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | <p>1カ月ごとに評価し、3カ月に1回見直し計画を立てているとともに、本人、ご家族の要望や状態の変化に応じ介護計画期間にとらわれず介護計画の変更や追加を行い現状に即した計画の見直しもしている。</p> | | |

鹿児島県 グループホーム曾於

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------|----|--|--|-----|-----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | ホームは協力病院と医療連携をし、看護師を配置し医療処置をしたり、通院や定期健診の介助を行ってホームの生活が継続できるように柔軟な支援がなされている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居者やご家族の希望されるかかりつけ医の医療を継続するよう、一人ひとりのかかりつけ医との関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している。 | | |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 入居時にご家族に看取りに関する指針を作成し説明しているが、今までに重度化や終末期を迎えた経験はしていない。重度化した時点でご家族の意思確認を行い、医療関係者と連携を図りながら看護師や職員で支援していく体制でいる。 | | |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 管理者は職員に個人情報に関しての理解と意識の向上を図っている。現場においても自尊心を傷つける言葉づかいや、羞恥心に配慮した支援が行われるよう具体的な注意をしている。 | | |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者一人ひとりの生活パターンを把握し、個人のペースを大切にできる範囲の中で希望に添えるよう(たばこを吸う人、好きな時間帯の入浴、夜更かしする人、嗜好品の買物に出掛ける人、理・美容院行きなど)その人らしい暮らしの支援をしている。 | | |

鹿児島県 グループホーム曾於

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|--|--|-----|--|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 職員が材料をみながら入居者と献立を考えたり、料理の味見をもらったり、お手拭きや食器並べ、食器洗いなど一緒に行い、テレビの歌を聞きながら楽しい食事ができるよう工夫している。 | | |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 夏場は日曜日を除いて毎日午前中を入浴時間にしてはいるが、希望があれば午後からの入浴にも対応している。本人の希望でシャワー浴をしたり、湯船に入ったりしている。お湯はかけ流しで使用し、入浴順序にも配慮しながら入浴を楽しむ支援がされている。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 本人の得意分野の役割(モップ掛け、食事の準備、片付け、洗濯干し、洗濯たたみなど)をもらい、張り合いが持てる生活支援や、ホーム内行事、ご家族との対面、ドライブ、外食、地域行事への参加など楽しみや気晴らしになるよう支援をしている。 | | |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | それぞれの希望を聞きながら、敷地内、隣接地の市の公園、市街地など臨機応変に散歩を行い、近くのスーパーへの買物など外出には必ず職員が付き添って出かけている。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 鍵をかけることの弊害を理解し日中は玄関に鍵をかけず、職員は所在確認を行ったり、リビングのドアについている鈴の音に注意を払って見守りをしている。居室は基本的に鍵はつけていないが、入居者の希望で(他の入居者の侵入を嫌い)鍵がついた部屋があり、本人が鍵の管理をしている。 | | |
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消防署立ち会いの下避難訓練を行い、避難経路の掲示と確認、消化機器、通報装置の場所確認はできている。 | | 訓練に参加できなかった職員もあり、夜間帯の勤務不安がないよう自主訓練を望みます。又消防訓練には地域の方へ参加を呼びかけ日頃から協力をもらえる体制を作って欲しい。地震、台風、水害などの自然災害対応についての対策も検討していただきたい。 |

鹿児島県 グループホーム曾於

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|--|---|-----|----------------------------------|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分・食事摂取量については目安を把握しており、毎日の摂取量を記録し、状況をみながら食事量や献立、おやつを加減、水分の種類の変更をするなど対応している。一人ひとりの嗜好や食事形態にあった食事の支援もしている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 1日のほとんどの生活場所であるホールは広い空間で一角には畳も敷かれテレビや炬燵を置いている。その脇にはソファもあり好きなところでくつろげるようにしてある。工作物・写真・柿の実など飾り、民謡や歌謡曲を流しリラックスできる雰囲気づくりをしている。 | | |
| 30 | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 個室は広く和風（畳・ロールカーテン、格子戸）と洋風（木の床、ブラインド、木のドア）と備えて希望のタイプが選べる。各室内にはトイレ、洗面台、収納庫、がついておりそれぞれが馴染みの品（時計、枕、ラジオ、ハンガーなど）を持ち込み職員と一緒に使いやすく配置している。 | | |